

# 「秋の交流会」に参加して

上越市 滝沢一成（北城町在住）

のだが、やっぱりこんなものであつたな。関古鳥が常駐している。目に見えないが、展示状態も少々さびしい。

ただ上越のこれから観光を担うのは、謙信公と春日山であることは言を待たないと思っている。上越としては、旅人が満足する展示を企画しないといさきかますい。

人が満足する展示を企画しないといさきかますい。

夕刻一路妙高市の赤倉温泉郷へ。

Jネット会員の皆さんには、妙高高原の、と言つた方が分かりやすいかも知れない。

雁木の総延長は約十六キロ。日本で最も長い。また現存する町家の数も質も、京都に匹敵する。その典型的な家屋が、しかしプラスシユアップはこれからだ。

東京から故郷に戻つてちょうど三年である。

およそ二十年前高田を離れ、帰つてきたりに属性があるのか、いまだに分からぬでいる。

それなのにJネットの先輩諸氏の上越

ニンゲはつきものだ。久しぶりに故郷を訪れた皆さんの輝く笑顔を見るとなぜか嬉しくなる。上越へ、よつこそ。

まず向かった先は、上越市埋蔵文化センター。閉幕間近の謙信公と春日山展

次に向かった先は、高田の旧市街地、本町七丁目界隈。雪国特有の雁木・町家がしつかり残っている地区である。

旧今井染物屋、高田小町、高田世界館

を見学。

に宿泊。ここはJネット会員にしてわが母校高田高校の大先輩K氏が設計したところで、とてももしやれていて、また快適なホテルである。いかついK氏の顔を思ひ浮かべながら、こんなに繊細な設計をされるのだなと思ったら、なんとなく嬉しくなった。

その答えを、旅を追体験することで探つてみたいと思う。

十一月七日、直江津駅に集合。どういふ訳か幾人かの方が乗り換え駅で乗り遅れただろうで、私が別働隊の車を動かし、彼女たちをピックアップした。旅にハプ

日曜にも関わらず入場者が少なく、さびしい。じつは私は二か月前にも訪れたまち



観光ボランティアの浦壁さん



旧今井染物屋

この雁木・町家は、これから上越の観光の柱として欠かせないものである。現に、地元有志のNPOが、雁木・町家といった歴史的遺産を生かしたまちづくりを進めている。



金型あくら荘

部屋は広い。きれいで、これだけのホテルが上越市にあるかというと…こんな胸をはつて泊っていただけのホテルが無いな、妙高市はさすが鶴岡市だなど改めて認識したしたいである。



池の平いもり池と妙高山

翌八日。快晴の妙高高原、いもり池へ向かう。

ここは紅葉の美しさで知られているが、評判通りの煌びやかな紅葉が私たちを迎えてくれた。

妙高のお山もくつきりと。

上越から見る角度も大きさも違つけれど、ここから見る妙高も美しい。

関山温泉に下る道すがら、不動滝にも立ち寄った。けれど残念なことに、降りていく山道が険しく、近寄ることを断念。



五智海岸にて



川上善兵衛像の前で坂田社長の説明を聞く



しかし、驚嘆すべきは、諸先輩方の、特に大姉のみなさまの健脚なこと、滝見物を誇めてバスが待つ駐車場まで約一キロほどの上り坂をうんこしょと言いつても、元気に歩き通された。素晴らしい若您であります。

この屋食を境に、後泊コースが始まりた。資料館にて、川上善兵衛の数十年にわたる奮闘を知る。

まず行き先は、岩の原葡萄園である。ここでは、わざわざ坂田社長からご案内いただいた。

ます行き先は、岩の原葡萄園である。ここでは、わざわざ坂田社長からご案内いただいた。資料館にて、川上善兵衛

の説明付きで、岩の原葡萄園である。が誇るワインの数々を飲ませていただきたい。その美味しさに、会員一同自然と頗るうか「フラッククaine」という赤ワインが絶品であると感じられた。

坂田社長の解説付きで、岩の原葡萄園が誇るワインの数々を飲ませていただきたい。その美味しさに、会員一同自然と頗るうか「フラッククaine」という赤ワインが絶品であると感じられた。

向かう。

ここは紅葉の美しさで知られているが、評判通りの煌びやかな紅葉が私たちを迎えてくれた。

妙高のお山もくつきりと。

上越から見る角度も大きさも違つけれど、ここから見る妙高も美しい。

ある方曰く、ここから間近に見る大荒れの日本海が絶景である。またその疾風怒濤の日本海を売り物にすべしと。たしかに海に迫り出したなみとせの窓から臨む日本海は素晴らしい、しかしそ日の海は、ただ静かにたおやかに、海岸の砂と戯れているだけであった。

屋食は、直江津の海岸を臨む「割烹なみとせ」にて、日本海を見ながら豪華な食事をいただいた。

ある方曰く、ここから間近に見る大荒れの日本海が絶景である。またその疾風怒濤の日本海を売り物にすべしと。たしかに海に迫り出したなみとせの窓から臨む日本海は素晴らしい、しかしそ日の海は、ただ静かにたおやかに、海岸の砂と戯れているだけであった。

葡萄園の過半数が、善兵衛さんが造り出したものであると分かり、一堂ぼうくと感心の至り。

明治からの酒蔵も入れさせていただきく。

葡萄園の過半数が、善兵衛さんが造り出したものであると分かり、一堂ぼうくと感心の至り。

明治からの酒蔵も入れさせていただきく。

その後、一泊目の吉川区にある「スカイティア遊ランド」へ向かう。

尾上岳は、パラグライダーのメッカ。この宿泊施設は、尾上岳にやつてくる旅人が良く泊るところらしく、常設の宿泊ノートには、鳥人たちの記述がたくさんあった。吉川区のかなり山奥に位置しているのだが、こんな山奥でも、お造りの刺身が出てくるのには、驚いた。必要なのかなとちょっと考えた次第。

さあ最終日九日である。

一行は、高田の大町通りの四・九の市に向かう。4と9がつく日に開催されるから「四・九の市」なんですね。

私が子供時代だった昭和三十年、四十年代の人とそれ違うのに身体を斜めにしたくらいいの、あの賑わいには程遠いが、風情は残る。旬の野菜、果物、魚、干物、金物、そしてどら焼き？懐かしい。たくさん買い物をする会員さんも。でも東京にどうやつて持つて帰るの？



四・九市

そして、小林古径邸へ。古径の住まいとアトリエがそつくりそのまま移築されており、興味は尽きない。しばし巨匠の氣分でアトリエに佇む。



古径邸のアトリエ



古径邸で中嶋館長の説明を聞く

廻り、そして私のよくな地元に残るものと、手を振り、暇を告げる。  
皆様、おつかれさま。そして上越を堪能していただきたでしょうか。

さて、自分は異邦人なのか、土着民なのか、その答えが紙面でなぞった「再びの旅」でようやくはつきりしてきたようだ。

そう、私はたぶんNOMAD、漂流民なのだな。上越にも東京にも属さない漂流民。だから上越の観光に対してよそ者の厳しい批評眼と、地元の「どこかしょうしく」泳ぐ視線、いずれも持つのだ。でも私だけではなくJネットの皆さんも、やはり根なし草のNOMAD、なつかしの言葉でいえば「テラシネ」に違いないと思うのである。

その、遠くからくるざとを見つめる目線はどこか哀しい、どこか温かい。

上越は幸せである。こういう方々が訪れるというその一点に限つても。

これをお読みの皆さんもぜひ来年お越しください。

さあ旅も終りに近づいた。  
この辺はんて解散だ。仲町「割烹三恵」。ここでも豪華な食事を堪能。昼酒も聞こし召す。まあ良いじゃないか、名残惜しい故郷に乾杯！

別れを惜しみつつ、直江津廻り、長野



Umezawa Iseki



三重櫓を背景に



旧今井染物屋



諱信像



世界館



「あ！父が写っている」と野田ヒロ子さん



金型あくら荘での記念写真



あくら荘での宴会風景



あくら荘でのカラオケ大会



晴天に恵まれたいもり池で



部屋に戻っての二次会



岩の原葡萄園での試飲会



燕温泉大田切り



スカイトピアでのカラオケ大会



高田城跡公園にて



「三恵」での昼食



「スカイトピア遊ランド」前列向かって右より　吉川区の山岸さん、稲荷副市長、杜氏の小池さん